

『PBIによる日本語教育の実践』

Franklin & Marshall College
三浦謙一



今日のセミナー

1)「PBIによる日本語教育の実践」の紹介(三浦)

9:00~9:10

2)初級から中級へ(三浦)

9:10~9:25

3)中級から上級へ(高見)

9:25~9:50

4)上級から超級へ(三浦)

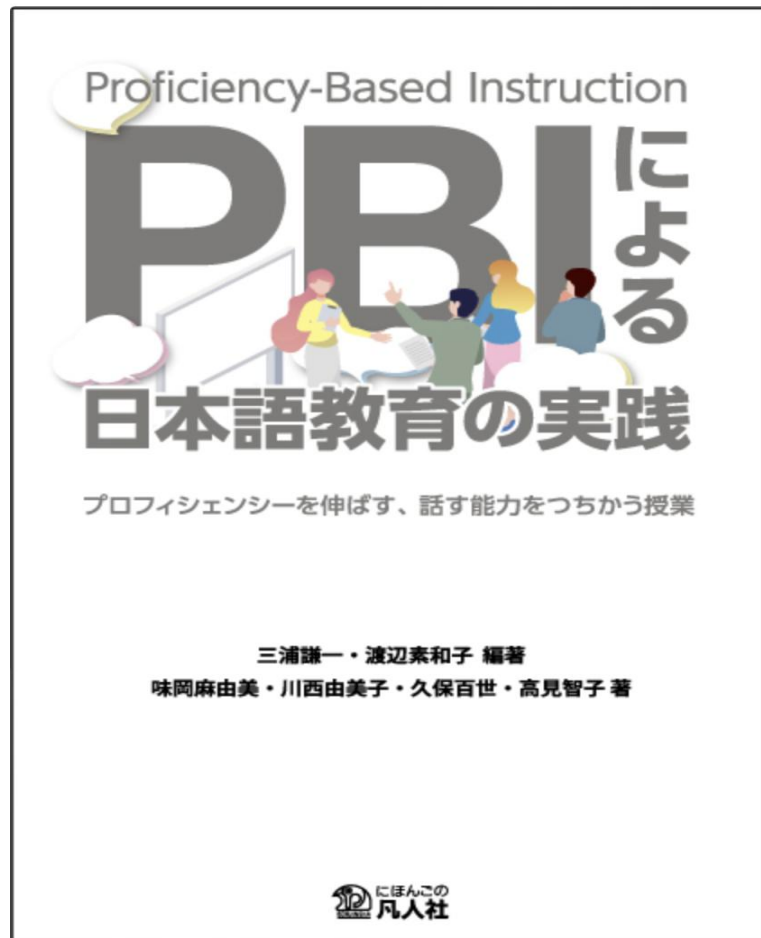
9:50~10:00

5)質疑応答

10:00~10:10

6)意見交換と発表

10:10~11:00



凡人社、2024


執筆に関して





語学教育

- ❖ 教科書に沿った従来の語学教育
 - ✓ 新出語彙
 - ✓ 新出文法
 - ✓ 文法の練習

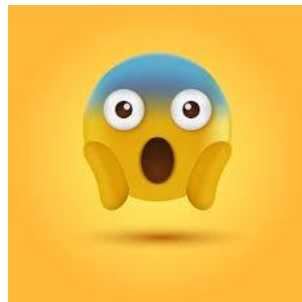
- 
- ❖ 語学教育の現場で実際の授業を参観して
 - ✓ 文法が正しく使えるかに焦点が置かれすぎている
 - ✓ 文法ドリル、ゲーム、不自然なロールプレイが最終目標

➤ 教科書の練習も「文レベル」が多い。

✓「してはいけません」

「教室で何をしてはいけませんか。」

正しく文が作れば、履修完了とする。



➤ 難しい文法の学習においても「文」レベル

✓ 「させられる」


「子供の時に、何をさせられるのが嫌でしたか。」

正しく文が作れれば、履修完了とする。



これで終わっては
ダメです



- 
- 日本語が使えるとは？
 - ✓ 日本語が使われている場所で日本語を使って「機能」できる能力。



Proficiency-Based Instruction

- ❖ プロフィシエンシー(実際の場面で機能できる能力)を養うための言語教育
- ❖ 文法、語彙を増やすだけではプロフィシエンシーは身につかない。
- ❖ 「何を知っているか」ではなく「何ができるか」に焦点を当てる。
- ❖ 「タスク」の中にもオーセンティックな要素を取り入れる。
- ❖ Task-Based Language Instructionと密接な関係
- ❖ 「基準」に基づいた言語教育

ACTFL Proficiency Guidelines (2012)

| プロフィシエンシーレベル | 機能・総合的タスク | 場面・内容 | 正確さ・理解難易度 | テキストタイプ |
|--------------|---|---|---|------------------|
| 超級 | 身近な話題不慣れな話題について話し、意見を弁護し、仮説を | ほとんどのインフォーマル、フォーマルな場面。／一般の関 | 基本文法に間違いのパターンがない。間違いがあっても、聞き | 複段落 |
| | 打ち立てる | 心事に関連した話題と特定の興味や知識に関する分野の話題とといった幅広い範囲 | 手は、メッセージから注意をそらされるなどコミュニケーションに支障をきたすことはない | |
| 上級 | 主要時制枠において、ナレーションと描写ができ、不測の事態をはらんだ日常的な状況や取引に効果的に対応できる | ほとんどのインフォーマルな場面とフォーマルな場面の一部／個人に関連した、または一般的な話題 | 非母語話者に不慣れな話し相手でも問題なく理解してもらえる | 口頭段落・つながりのある談話 |
| 中級 | 言語を使って自分の伝えたいことを作り出す、簡単な質問に答えたり、質問をすることができ、単純な場面や取引状況に対応できる | いくつかのインフォーマルな場面と限られた数の取引の場面／予測可能な、日常生活や個人の生活環境に関連した話題 | 非母語話者に慣れた話し相手に、時に繰り返したりすることはあるが、理解してもらえる | ばらばらの文・つながった文 |
| 初級 | 決まった語句や暗記した発話で、必要最少限のコミュニケーションができる。単語、語句、リストなどを産出する | もっとも頻繁に起こるインフォーマルな場面／日常生活のもっともありふれた内容 | 非母語話者に慣れた話し相手にも、しばしば理解するのが困難な場合がある | 個々の単語、語句、リスト(列挙) |



ACTFLとCEFR(日本語教育参照枠)

| 受動的スキル (読む、聞く) | | 能動的スキル (話す、書く) | |
|----------------|------|----------------|------|
| ACTFL | CEFR | ACTFL | CEFR |
| 卓越級 | C2 | | |
| 超級 | C1.2 | 超級 | C2 |
| 上級-上 | C1.1 | 上級-上 | C1 |
| 上級-中 | B2 | 上級-中 | B2.2 |
| 上級-下 | B1.2 | 上級-下 | B2.1 |
| 中級-上 | B1.1 | 中級-上 | B1.2 |
| 中級-中 | A2 | 中級-中 | B1.1 |
| 中級-下 | A1.2 | 中級-下 | A2 |
| 初級-上 | A1.1 | 初級-上 | A1 |
| 初級-中 | 0 | 初級-中 | 0 |
| 初級-下 | 0 | 初級-下 | 0 |



初級

- ❖ 覚えたものをそのまま発話
- ❖ もっとも身近な場面
- ❖ 単語、リスト、暗記した文



中級

- ❖ 習ったものを組み換えて「自分が言いたいこと」が言える
- ❖ 日常生活で普通に起こりうる場面に対応できる（買い物、道を尋ねる、近所の人に挨拶する、等）
- ❖ 文レベル（覚えた文が産出できるだけでなく、自分が言いたいことを文を組み合わせて表現できる。）



文法とは

- 言語教育の主役ではない。
- 言語を使って「機能」するための「名脇役」
- いかに「名脇役」を使うか：初級、中級言語教育の真髄。



例:「～ています」

1. 文法ドリル(メカニカルドリル)
2. 文レベルドリル
3. プロフィシエンシーのための練習



プロフィシエンシーを伸ばすために

例1: 授業後、クラスの友達に電話をかけ、一緒にプロジェクトをする約束をさせる。

こんばんは。今、何をしていますか。

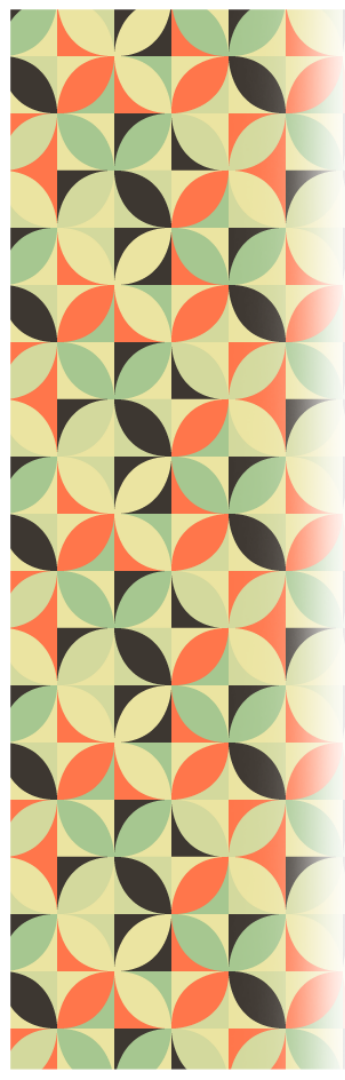



プロフィシエンシーを伸ばすために

例2: 怖かった話。

去年の10月でした。私は、10時ごろ勉強していました。その時.....


同時に**インターアクションの練習**
(そうですか、え？、それで？)

- 
- このような練習を多数することにより:
 - ✓ 習ったものを組み換えて「自分が言いたいこと」が言える
 - ✓ 日常生活で普通に起こりうる場面に対応できる(買い物、道を尋ねる、近所の人に挨拶する、等)
 - ✓ 文レベル(覚えた文が産出できるだけでなく、自分が言いたいことを文を組み合わせて表現できる。)



上級から超級へ

- 意見の叙述
 - 「上級」の意見との違い
 - ✓ 「抽象性」
 - ✓ 話題の選び方
 - ✓ 洗練された語彙
- ❖ ブレークダウンルームでお話しします。



OPI超級対策ネタを仕込もう (オンラインディスカッション)

毎月第1日曜日日本時間午前9時

[https://padlet.com/nihongopresession
/opi-a9glw3paqm55mse7](https://padlet.com/nihongopresession/opi-a9glw3paqm55mse7)